

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1494400110	事業の開始年月日	平成29年4月1日
		指定年月日	平成29年4月1日
法人名	医療法人社団 慈広会		
事業所名	グループホーム 楓		
所在地	(〒252-1107) 神奈川県綾瀬市深谷中3-12-15		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	☒ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和6年11月1日	評価結果 市町村受理日	令和7年3月18日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・機械浴を設置しているので、未永く入所が出来ます。
利用者の介護状態と個々の特性を踏まえ、出来る限り自宅に近く、自立した生活化できるように職員、ご家族様と一緒に支援していきます。
・朝食や行事等で、出来るだけ地域の食材を使用し提供しています。
・開所当初より、月行事に力を入れています。（ご家族様との交流を少しずつ再開しています。地域交流を含めて楽しい一時を過ごせるよう試行錯誤してまいります。）

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和6年11月29日	評価機関 評価決定日	令和7年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所概要】
当事業所は小田急線長後駅からバスで10分「大法寺」バス停から徒歩5分ほどのバス通り沿いに位置する瓦屋根の木造2階建て、2ユニットのグループホームである。建物内は白い壁紙と掃き出し窓や天窓からの採光で明るく、車椅子同士が十分にすれ違える広い廊下の中間地点東側にリビングとウッドデッキテラスの空間が広がっている。利用者はゆったりしたリビングやウッドデッキで過ごしている。また各居室や、居室内から自由に出入りできるベランダで洗濯物やタオル類を職員と一緒に干す等、思い思いに過ごしている。
【清潔感あふれるすっきりした共有空間】
リビングには食卓と椅子、ソファやテレビ等必要な物以外に「物」を置かず、すっきりしている。清掃が行き届いた廊下やリビングの白い壁に季節の飾り付けや利用者の写真や作品を飾っている。各種物品類は室内倉庫や収納棚にわかりやすく整理して収納している。共有空間は、毎朝、職員が朝夕の掃き掃除と拭き掃除、消毒等の実施して、誰もが気持ちよく過ごせる空間を作り出している。利用者もモップ掛け等できることを手伝っている。
【積極的な外出・外気浴支援】
天候が良ければ毎日、車椅子の利用者も含めて1対1あるいは2対1で積極的に散歩や買い物に出かけている。また、リビング前のウッドデッキテラスや駐車場スペースで外気浴や体操、テーブルを出してお茶会、昼食会等を行うこともある。車で初詣や桜の花見、蓮、菖蒲の花の鑑賞、フードコートでの外食等にも出かけている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホーム楓
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	グループホーム楓
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
		○	2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1, ほぼ全ての職員が
		○	2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての家族等が
		○	2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に張り出し、職員の目に付くようにしている。 理念を元に地域の中で、自分らしく自由に生活できるようサポートし、末永く安心した生活が送れるホーム。	開設時に職員が話し合って作成した理念は事務所内に掲示する他、3月の学習会で理念の再確認を行う等、浸透に努めている。管理者は理念のひとつであるユマニチュードを大切にしており、理念をサービスに繋げるために日頃から職員にユマニチュードを取り入れた介護を意識づけている。職員で構成する接遇委員会でもコミュニケーション技法について確認し、利用者への接し方として取り上げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	感染状況や天候を見ながら、少しずつ地域のお祭りやイベント行事に参加している。近隣の柿やブルーベリー狩りは恒例行事になっている。	中村自治会1区に加入しており、回覧板で地域の情報を得ている。年2回、職員と利用者が地域の清掃活動に参加している。近隣の寺（大法寺）のイベント「お寺でマルシェ」に出向き、キッチンカーで食べ物を購入してきて皆で食べた。散歩で公園に出掛けたり、買い物に出向いた際に近隣の方と挨拶を交わしている。昨年に続き、地域の小学生、中学生等のお囃子を受け入れた。クリスマス会には、大人10名子ども10名のフラダンスボランティアの受け入れを予定している。	清掃活動や運営推進会議、ボランティア受け入れ等で少しずつ地域との繋がりができてきているようです。さらに地域行事への参加や、事業所行事への地域の方に参加をして頂く等の交流を通して、地域との結びつきが深まることを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	随時、見学や相談は行ない、ホームの様子を見て頂き、認知症の理解に繋げている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告や話 し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に 活かしている	ご家族様や地域の方に施設内の様 子や運営状況を伝えている。地区の方の参加もあり、情報共有し、意見交換を行っている。	運営推進会議は2か月に一度開催している。メンバーは、自治会役員、民生委員3名、市の高齢介護課職員、地域包括支援センター職員、家族（毎回2～3名）である。全家族に開催案内と意見要望欄をつけた出欠確認票を送付して参加を呼び掛け、意見や要望を募っている。会議では、事業所の各種報告と地域や行政の情報を入手している。中村自治会1区では防災に力を入れており、防災に関する助言を貰っている。カセットボンベ型の充電器や敷地内にある井戸水の災害時の有効活用のための濾過装置の購入提案があり、備蓄品として購入した。井戸水については地域の方への提供も視野に入れている。事業所に防災無線がないことから、災害時には1区から安全確認のために人を派遣して、状況確認及び必要情報の提供をして貰えることになった。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護者についてや事故報告等にてホーム内の問題があった際や不明なところを相談助言を頂いている。	市の高齢介護課に運営推進会議の開催案内と報告書を郵送している。分からないことの確認に窓口に出向くこともある。福祉総務課とは、生活保護受給の方の通院について、電話で相談をしている。職員の訪問もある。市主催の集団研修には市内グループホーム6か所の職員が集まり、運営に関わる必要事項の説明等を受けた。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員をはじめとし、3ヶ月に1回学習会を開催。自己点検も年に2回行い、それを元に職員間で話あっている。	指針とマニュアルを整備し、身体拘束委員会を3か月に一度開催している。メンバーは各階の常勤職員1名ずつと管理者である。身体拘束廃止のための学習会を3か月に一度実施して、スピーチロックをしない、きつい言葉かけをしない等の目標を決めて年度で見直ししている。学習会は全職員対象で、欠席者には資料を配布する他、口頭で伝えるべきことは委員会メンバーが伝えている。また、動画での学習の場合は、後日視聴してもらっている。研修後には感想等自由記述のものを提出してもらい、それも含めて研修報告としてまとめ回覧している。施設内は極力施錠を控え、ベランダやベランダに続く敷地内は、自由に出入りできるようにして、利用者が動きやすい環境に配慮している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	学習会にて年に2回開催。職員の面談を年に1回行っている。（必要時は都度行っている）	指針を定め、虐待防止委員会を3か月に一度身体拘束委員会に続いて開催している。学習会は年2回高齢者虐待をテーマに実施し、県の虐待防止に向けた自己点検リストでの振り返りも年2回実施している。管理者は、日頃から出退勤時にタイムカードを打刻する際の職員の顔色を観察したり日々の様子から、様子がおかしい等、気づいた際には声をかけて必要に応じた個別支援を行っている。また、年1回職員と面談の機会を作って話を聞いている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学習会にて（自立支援についての意見交換）や成年後見人制度について学ぶ機会を設けている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書類を一緒に確認している。また不明な点がないかを途中確認しながら説明している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や電話連絡時に近況報告と共に、要望や至らない点など聞き、ホームのサービス向上に努めている。	面会時や電話でも要望等を聞いているが、今夏より家族交流ができる行事に合わせて3か月に一度のペースで家族会を再開したところ、開催時に質問や要望が多く集まっている。マイナンバーカードや保険証の取り扱いや管理についての質問があり、行政に確認のうえ回答した。外部医療機関での受診以外の外出や外泊の要望への対応も今夏から再開した。家族とは原則メールでのやりとりは行っていないが、利用者の様子を動画で送って欲しいという要望に対して、不定期ではあるが対応しているケースがある。また、希望する家族には、家族が持参するUSBに日頃の様子がわかる写真データを入れる等の対応もしている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各フロアー会議や個人面談等で意見や提案を聞いている。 (最近では、節約しながらも楽しく生活できる業務やレクリエーションを思考錯誤している)	職員の意見や提案は、年1回の個人面談の他、日々の会話や月1回同日開催のフロア会議及び合同会議で聞き取り把握している。会議内容は議事録を作成して、欠席者も含めて情報共有している。全職員が身体拘束防止委員会、感染防止委員会、スキンケア委員会等何らかの委員会メンバーになっており、そこで検討した内容は運営に反映している。スキンケア委員会の発案で利用者のハンドマッサージを行うようになった。物価高を考慮して、レクリエーション時の制作物の再利用や、従来使用していた使い捨てクロスに代わりに、家族や民生委員を通じ、地域の方の協力で集まったぼろ切れや、みかんの皮を掃除に活用する等皆で知恵を絞って楽しく節約に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格手当で、勤続手当を設けている。	昼敷きの休憩室があり、昼食後等交代で休憩を取っている。やり残し業務の引き継ぎを徹底する等で残業はほぼない。有給休暇は取得希望日をシフトに反映させることで取りやすくしている。永年勤続者には、一定の勤務年数ごとに勤続手当が支給される。介護福祉士や業務に従事する介護支援専門員には資格手当を支給している。ハラスメント委員会があり、学習会でもハラスメントについて取り上げ、管理者、介護支援専門員、責任者に相談できることを職員に伝えている。メンタルヘルスの公的相談窓口をハラスメントマニュアルに載せている。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	委員会では、係についた者が責任を持って各月の学習会に向けての資料作り等から行うようにしている。（外部研修へ行く機会を設けている）	年間研修計画を作り、毎月の合同会議内で学習会として実施している。対象者は全職員で、講師は各委員会の担当者や管理者、法人の看護師が担っている。動画で学習することもある。欠席者には資料を配布し必要事項は口頭で伝えている。動画研修の場合は後日視聴してもらっている。この他、今年度は法人の老人保健施設で開催されたAED研修や外部主催の身体拘束に関するオンライン研修に職員が参加した。介護支援専門員の資格取得研修、フォロー研修、介護福祉士実務者研修、認知症ケア研修等の受講は業務扱いとし、交通費も事業所が負担している。新人の教育は、事業所での入所時研修の他、OJTは各フロアの常勤職員が担当することになっている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	慈広会内の研修、学習会への参加。不明な点がある事は、他のグループホームへ連絡を取り、情報交換している。（要望時、同法人内のグループホームの見学会。感染状況より中止することあり）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の困っている事、要望等を傾聴し、安心した生活が出来るよう努めている。入所初期は、本人の様子を見ながら声掛けやコミュニケーションの機会を増やし、スタッフ内共有している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の不安や悩みを聞き、本人、ご家族様の希望に添えるよう話し合いの場を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様の話を傾聴し必要に応じ提案している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事を見出し、協力（お手伝い）をしてもらい、役割を持って生活をして頂く環境を作りに努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	楓たよりと個人の1ヶ月の様子等で情報共有させて頂き、また、必要に応じて状態変化時には電話連絡して対応策を考え、協力を得る。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	リモート面会、予約面会を行っている。外出の再開。外泊は要相談にて行っている。	面会は、家族以外に友人や親戚の訪問もあり、居室や応接室で対応している。手紙の取り次ぎや、携帯・固定電話の取り次ぎ支援をしている。趣味の編み物や書道をしたり、事業所が購読している新聞を楽しんでいる方がいる。嗜好品のコーヒーやコーラ、生姜紅茶等の提供をしている。外出時等に化粧やマニキュアを楽しまれる方もいる。利用者も一緒に購入に行くこともある。家族と外出して、自宅に戻ったり馴染みの飲食店等に行く方もいる。孫の結婚式に参列して外泊された方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活やその日の状態により、作業内容やレクリエーション、リハビリ等行うようにし、応援しあったり、一緒に取り組んでいる。会話もされている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後すぐは、お手紙を出している。 退居後も相談事やお困りごと等あれば対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご家族様、ご利用者様より意向が聞ける方はもちろんの事、言えない方も表情や態度にて読み取るようにコミュニケーションをとっている。	入居時のアセスメントのほか、家族等から生活歴や情報を得ている。利用者の思いや意向は日ごろの会話の中から汲み取っているが、特に1対1で対応するテラスでの外気浴や散歩、入浴時等に把握することが多い。意思疎通が困難な利用者については、仕草や表情、またアイコンタクトで確認して対応している。把握した情報は管理日誌等で情報共有してケアに繋げている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前にアセスメントを取り、生活歴や性格、趣味活動等聞き、他サービス利用の有無含め情報収集行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の1日の過ごし方や心身状態、残存機能の把握をし、職員間共有するとともにホームでの生活に慣れ、今まで出来ていた事は継続できる環境作りに努める。		
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所1ヶ月は本人と職員とがホームの生活がつかめる内容を主に立てている。その後の様子を踏まえ出来る事の継続や維持に向けた計画を立てている。	入居時に1か月の介護計画を作成し、その後は短期3か月、長期6か月で介護計画を見直している。モニタリングは、3か月、6か月ごとにフロアの職員と計画作成者が医師、看護師、理学療法士の意見を踏まえて行っている。職員の意見は、毎月フロア会議でのカンファレンスの中で確認している。家族の意向は面会時や電話で、医療関係者の意見はそれぞれの来所時等に確認している。介護計画はケア日誌（管理日誌）の中に一緒にファイルすることで、いつでもサービス内容が確認できるようにしている。管理日誌には、実際に行った踏み台昇降、階段昇降等具体的な内容を記述している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の中で支援や経過を個々に記録し、新しく出来た内容や変化等を職員間で共有し、次回のプランに反映させている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様の状態や問題にできる範囲の対応行っている。 買い物支援や病院受診等。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	通学時の子供たちの窓越し見送り。自治会の清掃作業への参加。		
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医がある際はご家族様協力のもと受診をしている。 個々の歯科受診に対応している。	月1回、協力医療機関である法人の病院の内科医師（看護師及び薬剤師を帯同）による訪問診療を全員が受診している。薬剤師は利用者の状態確認と配達を行っている。協力医療機関から24時間オンコールの訪問看護師が週1回来所して、全員の健康管理を行っている。以前からのかかりつけ医や内科以外の通院は原則家族対応となっている。受診結果は、家族から聞き取った内容を受診報告書にまとめてファイルで共有している。訪問歯科医が週1回来所して、必要な利用者の治療や口腔ケアを行っている。法人の老人保健施設から理学療法士が月1回来所し、歩行訓練や可動域の確認等をしている。その際、職員にも日々のケアについて助言がある。ケアプランにも反映させている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康管理のについての相談助言。必要に応じて受診が受けられるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に病院がある為、情報は共有している。また他の病院への入院の場合も地域連携室の相談員と情報提供を行っている。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化した際の話の説明し、また重度化した際に再度、説明し本人、ご家族と話し合い、他部署のを含め方針をやケアを決めている。	契約時に「重度化した場合の対応に係る指針」及び「看取りに関する指針」を説明して、同意書と「終末期医療についての事前確認書」を受領している。重度化すると、家族は医師から説明を受け、再度「終末期医療についての事前確認書」を提出してもらっている。「看取り介護計画」を作成して「看取り介護についての同意書」を受領すると、以降は看取り介護の対応となる。今年度は2名の看取りを行った。看取り研修は管理者や看護師を講師として年1回実施する他、看取りが近い場合はその時点で、また看取り後には振返りも行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	学習会で救急の初期対応を学び、事故報告が出た際は、再発防止に向け月1回話し合いの場を設けている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、震災訓練を卓上、実践を定期的に行っている。	6/27に昼間想定、10/22に夜間想定 of 火災を想定した通報、初期消火、避難誘導訓練を利用者も一緒に実施している。また、原則月1回自主避難訓練及び非常ベルや消火器の位置確認、誤作動時の対処方法等の確認を行っている。年度初めに地震訓練を行い、机の下に隠れる、隠れることが難しい利用者のために毛布を屋内倉庫に取りに行くという訓練を行った。浸水想定区域ではないが、水害訓練として階段を使った垂直訓練を予定している。BCP計画を策定し、9月に各フロアでシュミレーション訓練を実施した。備蓄品管理は各階2名及び管理者で構成する備蓄委員会が担当し、利用者と職員1週間分の食料（収納ケースに賞味期限明記）と飲料、熱源や衛生用品、懐中電灯等を取り揃え、リスト化している。今年度の運営推進会議の中で、災害時には自治会1区から安全確認のために人を派遣して状況の確認及び必要情報の提供をして貰えることになった。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、話をする際は、同じ視点に気を付けている。食堂等での情報共有の際はイニシャルや部屋番号、アイコンタクトで職員間に行うようにしている。	年1回個人情報保護及び接遇研修を行っている。利用者、職員ともに名前にさん付けで呼び合っている。利用者の前では部屋番号の末尾の番号で会話している。フロアでの記録は、タブレット端末の画面が利用者に見えないよう配慮している。トイレ誘導の際には、耳元で声掛けしたり、直接の行き先ではなく、立ちますよ、といった声掛けをするようにしている。個人情報を含む書類は、事務所の施錠できるキャビネットで管理している。使用者で使い分けている複数のPCやフロアで2台ずつのタブレットはパスワードで管理している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り個々の要望希望を聞いて対応している。（食事や買い物、趣味活動等）		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り個々が自由に生活できるよう外出を含め対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性の方にはお化粧品やマニキュアをする日を設けている。（利用者の訴え時等）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	散歩時の野菜や果物の購入。行事の日（月2～4回）を作り、利用者のリクエストを職員と一緒に準備したり、食事する場所を変えたり、外食行事（フードコート）を行い、個々の好きな物を選び食べる等行っている	朝食やおやつは、職員が手作りで提供している。散歩時に無人販売の地元野菜や果物を購入して活用している。昼食と夕食は、職員の手作りしたご飯と汁物及び業者による調理済み食材を湯せんして提供している。週1回は利用者の希望を取り入れた昼食とし、うどん、お好み焼き、手作りソースのスパゲティ等を楽しんでいる。月2～4回は行事食や特別なおやつを提供している。出前でお寿司を取ったり、寿司職人が来所してお寿司を握って貰ったり、カップラーメンの昼食会も行った。誕生日には、好みのケーキやリクエストでフライドポテトを提供している。食事の用意は、利用者も包丁を使って一緒に作ることも多く、盛り付けやテーブル拭き、下膳等も行っている。食堂だけでなく、テラスでおやつを食べたり、気候のいい時に駐車場にテーブルを出して昼食会を開いたり工夫している。外食行事としてフードコートに出向くこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量の把握や食事形態の変更や調整を行っている。必要に応じて栄養補助食品の提供を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々にあった歯ブラシやスポンジにて口腔ケアを行っている。口腔内の問題には、訪問歯科に依頼し、相談助言を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の状態に合わせてトイレ誘導排泄を行っている。トイレでの排泄を試し、行えるようにしている。パット状況を月1回カンファレスしている。	誘導が必要な方はタブレットで時間管理をしてトイレ誘導している。利用者の様子や仕草に基づく随時誘導でトイレでの排泄を支援している方もいる。自立の方は7～8名おり、必要に応じて支援している。終日おむつを使用している方が2名、夜間のみおむつを使用している方が9名いる。睡眠を優先させたいからという本人希望で、あえて夜間のみおむつを使用している方がいる。夜間安全のために部屋にポータブルトイレを置いている方が1名いる。終日おむつを使用していた方が支援を続けた結果、リハビリパンツ使用に改善された事例がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の状態を把握し、適度な運動、体操をはじめ、食事や水分で対応している。医師や訪問看護師に相談し内服にて対応している。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	機械浴の関係で入浴の曜日は決めている。入浴のタイミングは、個々に声掛けをして対応している。	1階は機械浴専用、2階は個浴専用になっており、それぞれ9名ずつが利用している。入浴は原則週2回、個浴は希望があれば同性介助や3回入浴にも対応している。機械浴は2人介助で浴槽のお湯は都度入れ替えている。個浴は、週1回温泉の日を設けて入浴剤を入れて楽しんでいる。また、季節のしょうぶ湯やゆず湯は機械浴、個浴ともに楽しんでいる。脱衣所にはエアコンを設置してヒートショック対策を施している。浴室はお湯を出して、温めている。好みのシャンプー、カラーシャンプーを使用している利用者がいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯でも個々に休む時間（ソファやベッド）を作っている。基本的には、日中の活動（運動やレクリエーション等）増やし、夜間の睡眠に繋げている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬状況の把握と共に、変更あった際は、申し送りボードに記載し各職員が把握できるように努めている。状況に応じてかかりつけ医、往診医に相談助言を頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る限り役割が持てるよう支援している（散歩、お買い物、手芸担当、園芸担当、家事全般、工作担当等）		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数にて感染対策をしながら、外出している。	天気の良い日には、車椅子の方も含めて1対1もしくは2対1で、利用者の状態に合わせて、積極的に散歩や買い物に出かけている。毎年隣接する法人職員宅の庭でブルーベリー狩りをしており、今年は家族も参加して楽しんだ。その庭を通して近隣の川沿いや公園まで散歩に出かけている。初詣に近くの神社や寺に徒歩や車で出向いたり、ドライブを兼ねてフードコートでの食事や市役所近辺の花見、蓮やアヤメの花鑑賞にも出かけている。また、きゅうりやナス、トマト、いちご等野菜の苗や花の種を利用者と一緒を買ってきて、テラスのプランターと駐車場の隅に植えたり播いたりしている。利用者が水やりもして、収穫を楽しんでいる。テラスや駐車場スペースで外気浴や体操、テーブルを出しておやつや食事を取ったり、お茶会を行ったりしている。また行事でミニ運動会を開催して家族と一緒に楽しんだり、雨の日等は、廊下や階段で歩行運動等を行っている。家族同行で墓参りに出かけたり、結婚式や葬儀参列をされた方もいる。孫の結婚式で外泊された方もいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本は、事務所にて保管しているが、おやつ購入、買い物、外食等の際個々の希望する場所にて購入する機会を作っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と相談のもと、携帯電話使用が出来る方は居室内にて使用をしている。希望時は施設内の電話にて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは季節の装飾を作り、飾っている。その飾りを個々の居室にて欲しい方には飾っている。照明やカーテンは都度、調整している。	建物内は白い壁紙と掃き出し窓や天窓からの採光で明るい。車椅子同士が十分にすれ違える広い廊下の中間地点東側にリビングとウッドデッキテラスの空間が広がっている。キッチンや事務室からリビングの利用者を見守ることができる。リビングには食卓と椅子、ソファやテレビ等必要な物以外の「物」を置かず、すっきりしている。清掃が行き届いた廊下やリビングの白い壁に季節の飾り付けや利用者の写真や作品を飾っている。各種物品類は室内倉庫や収納棚にわかりやすく整理して収納している。職員による毎朝夕の掃き掃除と拭き掃除、消毒等の実施、利用者もモップ掛け等できることを手伝えることで、誰もが気持ちよく過ごせる空間を作り出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席やソファの位置を定期的に変え、トラブルが起きないように席替えをしている。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の愛着があるものを持参して頂き使用している。	居室にはエアコン、照明、防災カーテン、介護ベッド、洗面台、整理箆筥が備えつけられている。利用者は馴染みの家具やテレビ、仏壇等を持ち込み、家族の写真やぬいぐるみを置いている。また、職員と一緒に作成した工作物を飾っている利用者もいる。各居室入り口には、名前が大きく書かれた表札がかけられている。居室の清掃は主に朝夕、掃き掃除と拭き掃除を職員が行っている。部屋の洗面台は週1回消毒している。利用者が手伝えることもある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々を理解しその方が出来た事を活かし見守り、安全に過ごせるように一緒に物の配置を検討している。		

目 標 達 成 計 画

事業所名

グループホーム 楓

作成日

令和7年3月18日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	感染症予防としてボランティアの受け入れや参加を制限していたが、地域交流も含め、関わりが持てる環境作りに力を入れていく。（感染症には十分に気をつけなければならない）	・実習生の受け入れ ・各サークル活動の参加 ・地域のイベントへの参加 ・楓のイベントへの参加	・月の行事に、各サークルボランティアによる演技、発表の観賞の場を入れていく（例：大正琴・フラダンス・オカリナ・ハンドチャイム等） ・地区の消防訓練に参加	1 年
2					
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。